

第2章 家庭学習のできる環境づくり

子どもの家庭学習のために保護者ができることは、第一に環境づくりです。それは決して、広い勉強部屋を用意したり、多くの参考書を買って与えたりすることだけではありません。

第2章では、子どもが毎日コツコツ家庭学習を続けられるようにどう支えていけばよいか、環境づくりの基本について確認していきます。

また、子どもの家庭学習を定着させるには、環境を整えるだけでなく子どもができるだけ自分で学習の内容ややり方、時間などを決めていけるように、手助けをすることも大切です。

「なぜ勉強をしなければならないか」などについても話し合うことができれば、子どもが自分なりに納得をして勉強に向かうことが期待できます。



1 時間を決める



学校以外での学習時間が多い子どものほうが、得点（平均正答率）が高くなっています。（くわしくはP11のグラフのとおり）。

家庭での学習時間が多いほうが、学力も向上するというのは当然の話だと思われるかもしれませんが、これまで子どもの学力には、「家庭背景（所得や両親の学歴等）」が大きく影響するといわれてきました。

しかし近年、家庭背景の影響を除いても「学習（＝努力）すること」が高い学力の獲得につながると、改めてデータで出されています。家庭背景を変えることはできませんが、環境づくりや努力により結果は出るのです。

また、学習時間は、長さだけでなく始める時間も決めることが大切です。毎日決まった時間にコツコツ続けていきましょう。

集中力が続かない子は、漢字練習→計算練習→植物や動物の観察など、次々に学習内容を変えてみるのも有効な手段だといわれています。それでもすぐに飽きてしまう場合は、内容のレベルが合っていないのかもしれません。少しレベルを下げて、子どもに合った学習内容を探してみてください。

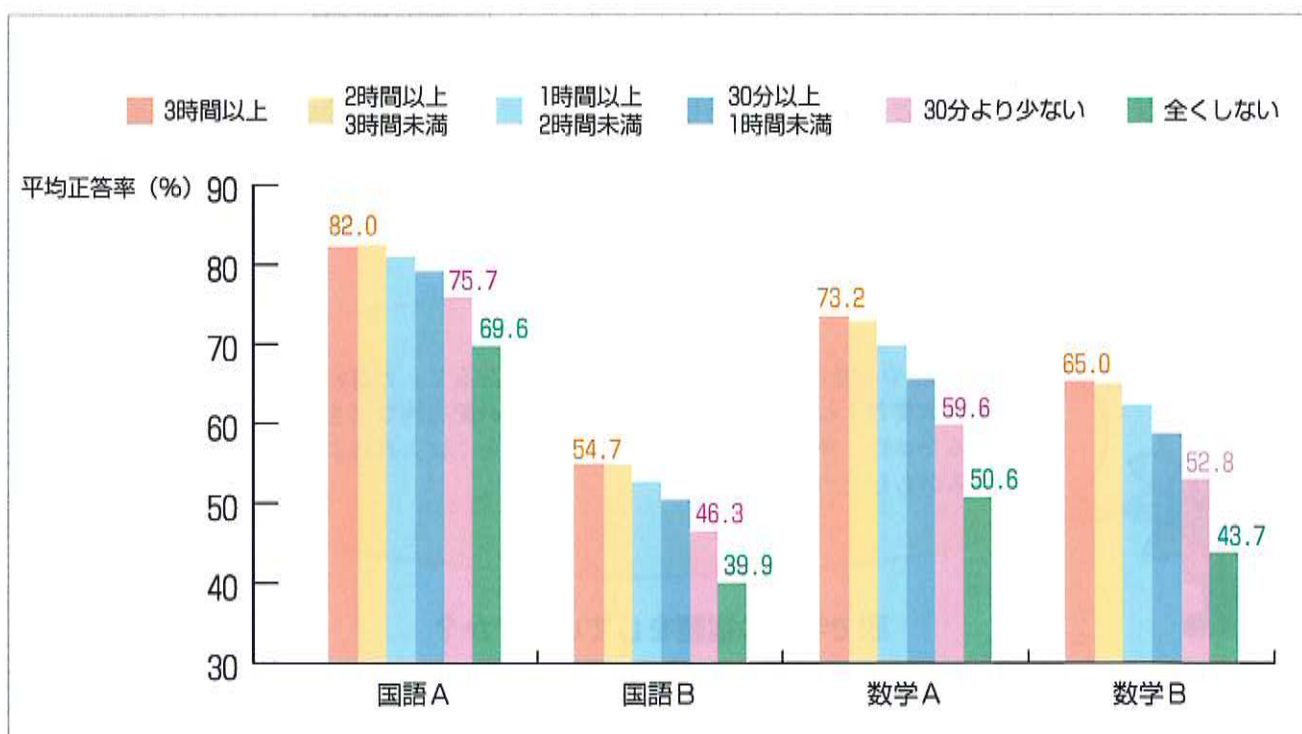
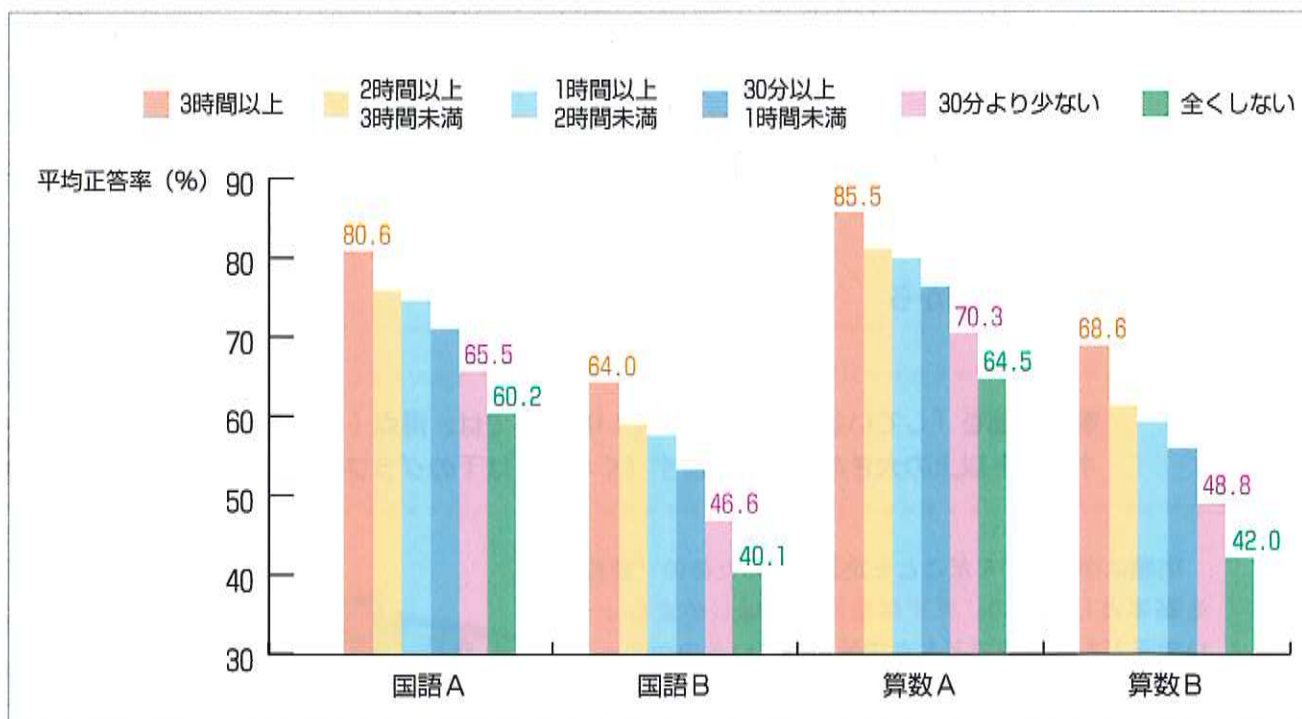
子どもの集中力が続く時間は、小学生の場合、おおよそ「学年×10分」といわれているから、この時間を学年ごとの家庭学習の時間のめやすにできるよ。ただし、「学年×10分」は、あくまでもめやす。一人ひとりに合わせて、徐々に慣らしていこう！



家庭学習のめやす時間

学年	学習時間
小学1・2年	10～30分くらい
小学3・4年	30～50分くらい
小学5・6年	50～70分くらい
中学1・2年	90～120分くらい
中学3年	120分以上

学校の授業時間以外に普段（平日）1日当たりどれくらいの時間勉強しますか
（学習塾等も含む）



「平成 26 年度全国学力・学習状況調査」より



「全くしない」より「30分以下」でも勉強をしたほうが、得点（平均正答率）が高くなっていることに注目！とくに中学生は、国語 A で 6.1、国語 B で 6.4、数学 A で 9.0、数学 B で 9.1 と、するしないで大きなポイント差が出てるよ!! 少しずつでも、家庭学習の時間を習慣づけていくことが大事なんだ。

2 場所を決める

時間のほかに、毎日決まった場所で学習することも大切です。そして、その場所を学習に集中できるような環境にしましょう。学習する机やテーブルは、きれいに片づけ、漫画やゲームなどを目のつく場所に置かないこと。照明は利き手の反対側に置き、頭や手の影ができないよう明るくします。できれば、人やペットの通らない静かな場所が望ましいでしょう。また、**小学1・2年生については、保護者の目が届いて言葉を交わしあえる場所のほうがよいでしょう。**

3 まずは宿題と明日の準備から



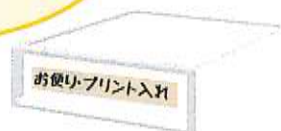
家で宿題を「している」と「全くしていない」では、得点（平均正答率）が概ね20ポイント以上の大きな差があります（くわしくは下のグラフのとおり）。

宿題は学校で学んだことを定着させるための「練習」を基本としたもの。**まずは宿題からはじめましょう。**いま子どもが学校でどんな学習をしているのか知っておくためにも、毎日の宿題をできるだけ見ておきましょう。

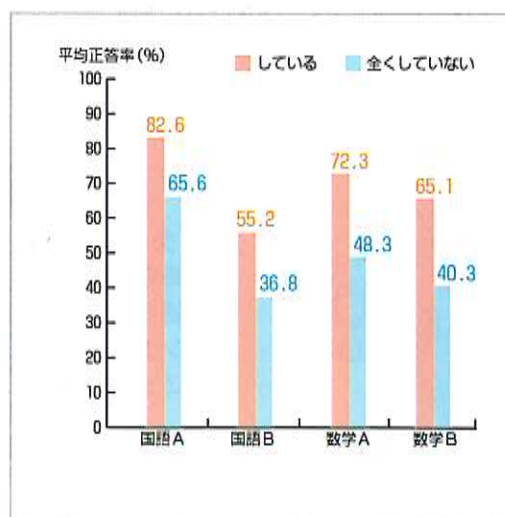
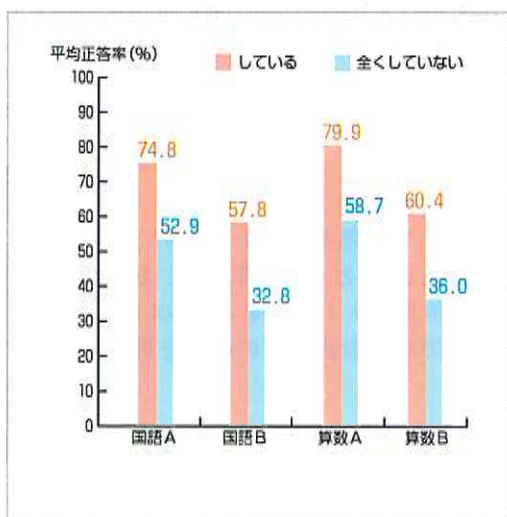
宿題が終わったら、次の日に必要なものをチェックし、登校の準備（学習用具の点検や忘れものチェック）をします。時間割は壁などの見やすい場所に貼り、**学校からの連絡やお便りは、子どもと一緒に確認していきましょう。**



「宿題やった?」「学校からのプリントはある?」と毎回聞くのも大変だね。終わった宿題や学校からの配布物などを整理するために、専用のカゴなどを用意して、そこに入れるようにするのもひとつの方法だよ。



家で学校の宿題をしていますか?



「平成26年度全国学力・学習状況調査」より